

■□要旨■□

1. A.I, IoT, 仮想通貨の最新動向

最近、名だたる大企業が業界の垣根を越えて、AI、IoT、仮想通貨の本格的な事業化に取り組んでいる。OKWAVEも「ブロックチェーン」の知見集積に努めつつ、仮想通貨ビジネスに新規参入した。また、Q&A事業のAI活用の推進を通じ、20年後に来るべきSingularityの時代に向けて着々と準備をしている。

2. Whyに働きかける(サイモン・シネックのゴールデンサークル)

人を動かすときは、Whyから説明する。大野耐一氏(トヨタ自動車)が提唱した「なぜ」の5回繰り返しによる「カイゼン活動」と同じく、物事の本質は「なぜ、そうなるのか？」の真因を究明することにある。

3 色眼鏡を外す

大抵の人は先入観をもって物事を判断している。そういった色眼鏡をかけている人たちと仕事をしていたとしても、95%の人たちとはうまくいく。ところが残り5%の人とのトラブルが致命的な問題に発展し、頓挫することがよくある。是非とも色眼鏡を外して、残り5%の人も巻き込んで、一緒にテーブルに着いた上で問題の解決にあたってほしい。

4. 差別とホームレス体験からの立ち直り

幼少時から差別や病気を経験し、人生のどん底を早くから経験した。自分を「どん底」から這い上がらせてくれたのは、ある中国人女性との出会いがきっかけ。自分がどれほど現状に甘えているかを気づかせてくれると同時に、自身も「今のような状態になったのはなぜか？」を真剣に考え、その解決に向け、もう一度やり直す決意をした。

5. 組織活性化の仕組み

物事の全体像から話をすることがポイント。詳細から説明するのは機能しない。また、社員教育として講師を呼んで行うよりも、互いに「教えあう」仕組みづくりを構築した方がうまくいく。

■□今回の学び ひとつでいうと■□

どんなにひどい状況からも、人は必ず立ち直る。それは、ひどい状況に自分を貶めたヒト・モノへの「リベンジ」という形では決して成し得ない。むしろ、状況の正確な分析と原因追究が重要。更には現状からの脱却をあきらめないという心の持ち様がそれを可能とする。



■□感想■□病気や国籍差別等の不幸な境」を乗り越えた上で、現状に満足することなく、更なる高みを目指す兼本社長。単純に「バイタリティーがある」からではなく、「未来へのあくなき挑戦心」が事業拡大への駆動力となっていると思う。